

日本学術会議  
臨床医学委員会 子どもの成育環境分科会（第25期第10回）  
議事録

日時：令和4年5月9日(月) 18:00~19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、相澤、浅野、伊香賀、大倉、神吉、定行、都築、中坪、三輪、吉野、水口（敬称略）

- 冒頭に山中分科会長から、フォーラムとしては、不採択となり、また、シンポジウム案としても、今のままだと難しいというコメントが出ている旨の説明があった。
- 幹事会の指摘事項は、以下の通り。
  - 学術側の登壇者が少なく、学術的な議論ができないのではないか。そうすると学術会議が主催するフォーラムとしてふさわしくないのではないか。
  - データ収集が大きな目的となっているが、収集したデータをどのように処理して、どのように学術的な検討をするのかというのを入れ込む必要があるのではないか。
  - （学術フォーラムではなく）公開シンポジウムにしても内容が厳しい。学術会議である以上、それにふさわしい登壇者をご検討いただくべき。
  - やるのであれば、学術研究者の方に入っていただく、もう少し、会員や連携会員にも入っていただくべき。分科会がしっかりと主体になるべき。
- 西田から、シンポジウムの修正案の説明があった。この修正に関して、以下のようなコメント、意見が出された。
- 環境デザイン、生活デザインの部分に関して、そのために必要な子どもの傷害データの在り方という観点での議論ができるよいのではないかと。こういうデータが欲しい、データの必要性を訴える方がシンポジウムの趣旨に相応しいのではないかと。
- データを入力しやすくするシステムの話や、集まったデータが利活用しやすいデータ構造の話などがあれば、前半がデータ提供の話、後半がデータ活用の話となり、つながるのではないかと。
- 人数が多くて、散漫になる可能性があり、一部の人（1-2名程度）は、指定討論者などでもよいのではないかと。子どもの視点の人も含めるべきである。
- 親は自分の責任と感じているが、市民のレベルでのデータの蓄積では、親がどう考えるかも大事。建築の分野で科学的なアプローチがあれば、そこを話してもらえと思う。
- 文部科学書の安全安心に関する委員会に入っている。もし、話題提供が可能とすると、傷害を発生させない環境づくり以外に、そもそも、子どもの運動能力が低下している点もあるが、今回のテーマとずれているかもしれない。
- 情報学分野は、相沢先生、セキュリティ分野は、宮地先生が適任ではないかと。情報学分

野は、ヘテロなデータの利用の難しさも含めて話をしてほしい。生活デザインは、定行先生が適任だと思う。

- 質疑は、司会の人、が、デスクパッチする方法を考えている。
- シンポジウムは、学術会議のメンバーが増えたので、基本、この案でよいと思う。
- 第1部から2名ぐらいは、総合登録で参加頂くとよいと思う。第2部に対応する人という観点から、第1部を選んでもよい。キッズデザインは必須ではないと思う。
- 子ども環境学会でのメーリングリストで流すことを認めてもらっている。
- 5月11日までに、シンポジウム案として修正案を提出予定である。

最後に山中委員長から、次回の議題として、シンポジウムの審議結果報告の説明があり、閉会となった。